

第3098号

8月6日(水)
平成26年(2014年)

発行所
〒112-0002
東京都文京区小石川5-4-4
コーティングメディア
編集印刷発行人 コーティングメディア
電話 東京 03 (5842) 8750 番
振替 00120-9-36573 番
http://www.coatingmedia.com

Paint & Coatings Journal

ペイント&コーティング ジャーナル

トピックス

女性のためのペイントクラブを設立

売り場活性化との相乗効果に期待

和信ペイント

家庭用塗料メーカーの和信ペイント（本社・埼玉県幸手市、社長・深澤筑紫氏）は、女性によるDIYペイントクラブ「Japan Ladies Paint Club」（ジャパンレディーズペイントクラブ）を発足した。「全国のペイント愛好家の方々と交流を図りたい」と、ペイント体験教室や作品交流の場を提供することで、塗料売り場の活性化、ペイントファンの拡大につなげていきたい考えだ。

◇

現在、家庭用塗料（DIY）塗料市場は約250億円（本紙推計）。1970年代にDIYブームを迎え成長を続けてきたが、ここ近年はジワジワと縮小の傾向をたどっている。

需要縮小の要因として挙げられるのは、生活スタイルの変化と世代間の断絶。都市部におけるマンション暮らしの拡大や「直すより買う方が安い」といった消費嗜好の変化が、生活の場面からDIYの存在を消し、また父から子といった経験の継承も途絶えさせてしまっている。

今現在も団塊の世代以上のオールドユーザーがDIY市場を支える中、新たにDIYユーザーを創出することが不可欠というのが業界の共通認識となっており、週末には全国各地のホームセンターで住まいに関するイベントやワークショップが催されている。

そこで次なるDIYユーザーの担い

手として期待されるのが女性の存在。カントリー、ヨーロッパアンティーク、古民家風、アジア風など、ライフスタイルを楽しもうとするこだわり派が顕在化。中でも若い女性や子育てが一段落し、時間に多少ゆとりを持つ女性層の感度を刺激することが成長の活路になるとの見方が強まっている。

このように女性がDIYユーザーになり得ることを明らかにしたのがDIY女子部の存在。DIY愛好家によるサークル活動として発足した同部は、設立3年あまりで会員数1,800名を誇る一大組織に成長。常設拠点での活動や、全国各地で行うワークショップを通じ、モノ作りを楽しむ、また完成した作品を見せ合い楽しむというコミュニティが形成されている。作ることに喜びを見出す女性達の存在を発掘し、更に潜在ユーザーを誘引していく。1つの方

向性が見え始めている。

今回、和信ペイントが設立するジャパンレディーズペイントクラブは、その名の通りペイントを専門にしたコミュニティグループ。「DIYで括るとペイントは1つのカテゴリーになるため、ペイントに特化することで、より深い交流ができると考えた」と同社お客様センターの寺尾氏は設立の経緯を説明。名称もあえて社名を外すことで、メンバーが気軽に交流できる場を作ることテーマに据えた。

同社が描くストーリーはこうだ。

まずは同社スタッフが主導する形で、全国各地のホームセンターでペイントワークショップ（体験教室）を開催する。開催に際しては、専用ホームページやSNSなどで告知し、ペイントに関心のある女性を集客する。集まった参加者に対しては、ペイントのイ

ロハや楽しさを伝えつつ、クラブへの加入を促し、より深い情報提供やメンバー交流を図っていくというもの。インターネットとリアル（現実）の両面でペイントファン同士の交流の場を提供することで、ペイントの新たな楽しみ方を見出していく考えだ。「将来的にはホームセンターの女性販売員や地域の会員にインストラクター（講師）を担って頂きたい」と活動の広がりに伴う人材の創出にも期待する。

実際の交流の場として、同社が重要視するのが全国各地に点在するホームセンター。生活者に親近感があり、かつワークショップを可能にするスペースを保有するホームセンターを拠点に据えることで、ホームセンターの要望でもある女性層の集客向上に寄与できるとの期待もある。

6月にはプレイベントとしてスーパービバホーム岩槻店でペイントワークショップを開催。参加した女性がアンティーク塗装を楽しむ中、通りがかりの客が足を止めて作業の様子に見入るなど、関心の高さがうかがえたという。「女性層の集客向上を求められているが、具体的方法を見出せないで苦勞しているホームセンターに対し、クラブが一助になればと考えている」と話す。

8月下旬に開催されるDIYショーの同社ブースにて、初の公式ワークショップを開催する予定。その様子をホームセンター担当者に訴求することで、順次協力の打診を図っていく意向を示す。また工具メーカーや資材メーカーとの連携も視野に入れ、活動に厚みを加えていく考えだ。

専用ホームページは8月上旬に開設する予定。製品開発からサービス提供へ、ユーザーと売り場をつなぐ新たな発想が求められている。

